

建築学分野		インテリアデザイン					
学年	第2学年	担当教員名	栗原浩平, 大槻香子, 西澤岳夫				
単位数・期間		1単位	後期	週あたりの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		<p>人々が建築物を利用するとき、機能性と合理性を備え快適で心地よい環境が求められる。それらを創造するためにインテリアデザインの知識が重要になる。そして、この知識は建築計画、設計演習、環境工学などの基礎知識として重要である。この授業では、住宅のインテリアに関する基礎的な概念とデザインスタイル・カラーコーディネートの基本を学び、インテリアの構成要素と人間工学の知見に基づいた配置計画を講義と演習を通して習得する。また、住宅のインテリアデザインのプレゼンテーションを実施し、コミュニケーションを通してインテリアの内容を説明できる能力を身につける。</p>					
		釧路高専目標	C:20% D:50% F:30%	JABEE目標			
履修上の注意(準備する用具・前提となる知識等)		<p>この授業は、基礎知識を確認するための演習課題を3テーマ、さらに設計演習Ⅰの設計課題と共通の住宅をテーマにした課題に取り組む。 設計演習で習得した内容とインテリアデザインで習得した内容を相互に活かせるよう意識する。 また、設計演習Ⅰの設計課題の遅延はインテリアデザインの課題達成にも影響するので、スケジュール管理を徹底すること。</p>					
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インテリアデザインの概念、基礎的な用語、スタイル様式、カラーコーディネートなどについて説明ができる。</li> <li>・有名建築デザイナーのインテリアデザインを説明できる。</li> <li>・空間の目的に合わせた住宅のインテリアデザインができる。</li> <li>・住宅のインテリアデザイン・コーディネートのプレゼンテーションができる。</li> </ul>					
成績評価方法		<p>合否判定：中間試験50%，プレゼンテーション課題30%，演習課題20%で評価を行い60点以上を合格とする。 成績評価：中間試験50%，プレゼンテーション課題30%，演習課題20%で評価する。 合格点に達しない場合は再試験を実施し、再試験の評価が60点以上で合格とする。</p>					
テキスト・参考書		<p>【教科書】 超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 エクスナレッジ</p> <p>【参考書】 インテリアの基本がわかる本 エクスナレッジ 図解テキスト インテリアデザイン 井上書院 新建築、日経アーキテクチャー 建築知識 ゼロからはじめる建築のインテリア入門 彰国社 インテリアコーディネーター試験キーワードブック オーム社</p>					
メッセージ		<p>インテリアデザインは、建築の幅広い分野に関連する科目です。 常日頃から建築・住宅関連の雑誌等に目を通し、知識を広げることを勧めます。</p>					
前関連科目		建築概論，建築設計演習Ⅰ		後関連科目		建築設計演習Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，建築計画Ⅰ，Ⅱ，建築環境工学Ⅰ，Ⅱ	

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
第1回 ガイダンス、インテリアデザインの概念と業務（1回） 第2回 インテリアエレメントとインテリアのスタイルの理解（1回） 第3回 カラーコーディネート（1回） 演習課題1・インテリアスタイル分析シートの作成 第4回 照明計画（1回） 第5回 インテリア構造と開口部とウィンドウトリートメント 第6回 インテリアの仕上げとインテリアマテリアル 第7回 空間レイアウト・動線配置計画（1回） 演習課題2・インテリアレイアウト図面の作成	第1回 インテリアデザインの目的と役割，仕事内容について説明できる 第2回 インテリアエレメントの構成を理解し，家具の構成と寸法について理解できる インテリアスタイルの様々な様式をイメージスケール，事例を通して説明できる 第3回 明度・彩度・色相の基礎知識と色の組み合わせの基礎を理解できる 画像からインテリアスタイルを分析できる 第4回 照明器具の用途と種類，機能について説明できる 第5回 壁・床・天井などの構造，開口部の機能と役割を説明できる ウィンドウトリートメントの種類と機能について説明できる 第6回 インテリア材料についてインテリアコーディネーションとの関係を説明できる 第7回 動線計画に基づいた家具配置のレイアウト図面を作成できる
後期中間試験	実施する
第8～10回 インテリアデザイン実習（3回） 演習課題3・インテリアデザインプレゼンボードの作成 第11回 住宅のインテリアデザインプレゼンテーション1 ガイダンス（0.5回） 第12～13回 住宅のインテリアデザインプレゼンテーション2 課題作成（2.5回） 第14回 住宅のインテリアデザインプレゼンテーション3 発表会（1回）	第8～10回 室内空間を構成する収納計画・照明計画とウィンドウトリートメントについて検討できる 決められた条件に合わせて，室内空間を構成したインテリアデザインボードを作成できる 第11～13回 設計演習Ⅰの課題である住宅のインテリアデザインを行い，成果物とし模型などを作成できる 第14回 作成した課題を使い，住宅のインテリアデザインについてプレゼンテーションができる
後期期末試験	実施しない

到達目標			
1.インテリアデザインの概念，基礎的な用語，スタイル様式，カラーコーディネートなどについて説明ができる 2.有名建築デザイナーのインテリアデザインを説明できる 3.住宅を空間の目的に合わせたインテリアデザインができる 4.住宅のインテリアデザイン・コーディネートのプレゼンテーションができる。			
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	インテリアデザインの概念，基礎的な用語，スタイル様式，カラーコーディネートなどについて理解し，説明が十分にできる	インテリアデザインの概念，基礎的な用語，スタイル様式，カラーコーディネートなどについて理解し，基本的な説明ができる	インテリアデザインの概念，基礎的な用語，スタイル様式，カラーコーディネートなどについて理解できない
評価項目2	有名建築デザイナーのインテリアデザインを理解し，詳細に説明できる	有名建築デザイナーのインテリアデザインを理解し，簡単な説明ができる	有名建築デザイナーのインテリアデザインを理解できない
評価項目3	住宅を空間の目的に合致しなおかつ個性的なインテリアデザインを検討及び提案できる	住宅を空間の目的に合わせたインテリアデザインを検討することができる	住宅のインテリアデザインができない
評価項目4	住宅のインテリアデザイン・コーディネートの優れたプレゼンテーションができ，その特徴について説得力のある説明ができる	住宅のインテリアデザイン・コーディネートのプレゼンテーションができ，その特徴を説明できる	住宅のインテリアデザイン・コーディネートのプレゼンテーションができない

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50			5	45		100
基礎的能力							
専門的能力	50			5	45		100
分野横断的能力							